

【作文】 小学生の部
最優秀賞 僕の平和の形

伊吹小学校六年 膽吹 春太

社会科の授業で日本国憲法の二つの原則を習った。国民民主権・基本的人権の尊重・平和主義だ。人権が尊重されるから平和が守られる。平和だから人権が守られる。平和と人権はつながっていると感じた。

でも、平和の形や人権の形、伝えたいことはあるのだろうか。僕にはその形が分からない。習ったけれど、その形を口にしると言われたら言えないと思った。

平和の意味を辞典で調べてみると、「一、戦争や紛争がなく、世の中がおだやかな状態にあること。二、心配やもめごとがなく、おだやかなこと。」と、書かれていた。

僕の周りで戦争はない。心配はあるけど、おだやかに暮らしている。だから僕の周りは平和なのだろう。でも、テレビの向こうの世界は平和といえるだろうか。僕は、いえないと思う。東京で行われたオリンピックも、コロナウィルスのせいで、予定通りにできなくて、テレビでは毎日大人たちが「誰かをせめて、辞めさせる。」をくり返しニュースで伝えていた。だれかが争い、責めるのくり返し。これが平和とは僕には思えない。こんなことならオリンピックをしなければいいのにと思った。夏休みが始まり、僕が見ていたテレビは、すっかりオリンピックに変わっていて、その様子が目に入ることになった。日本人がメダルをとった。優勝を期待されていた人が決勝に出られなかった。笑顔、泣き顔、お礼やお詫び、いろんな顔や言葉がテレビに映し出された。日本人だけではなくて、いろんな国の人がそこには映っていて、みんな一生けん命その競技に打ち込んでいる。言葉が通じないのに、同じルールの中で競っている。

片言の日本語でお礼を言う外国人の選手、その選手の人たち

の役に立とうとがんばるボランティアの人たち。選手村のご飯はおいしいと、外国の人がほめてくれていた。

戦争みたいで命が危険になる争いではなくて、ルールを守り、お互いを認め合っていて、最後にはスポーツを通して仲良くなる。これが平和なんだ。これがオリンピックの意味だと思った。見えないけど形があった。

僕は世界を知らない。僕の世界は、自転車で動ける小さなほんのりだ。その小さな世界で僕は学校に通い、野球をしている。市内の五つの小学校から集まる僕たちは、ほかのチームのように同じ小学校で生活をしているわけではない。それでも、練習が始まると、同じルールの中友達と仲良くしてお互いを大切に思いながら、一つの球を追いかけてがんばりあっている。オリンピックに平和の形があったように、僕の周りにも似たような小さな平和があったと気が付いた。

それぞれ違うかもしれないけれど、世界の人たちがテレビを通してオリンピックを応援したように、僕たちには野球が真ん中であって、監督やコーチがいて、お父さんやお母さんたちが見守っていてくれる。

失敗をして怒られるのは怖いけれど、ホームランが打てたらとてもうれしい。チームメイトとがんばれるとうれしくなる。世界一を決める大会と比べると小さく感じるけど、もしも平和や人権に形があるとしたら、これが僕の平和の形なのだと思う。テレビの向こうでは、目をつぶりたくなるような争いがたくさんある。小学生のぼくにできる事なんて少ないけれど、今の僕にできるのは、チームメイトを大切にして、お互いを認め合う事だと思う。そして相手チームにも同じ気持ちで接してあげば、オリンピックのようにその気持ちは伝わり、輪になるのだと思う。言葉に出すのは恥ずかしいから、一つ一つのプレーに色々な気持ちをこめて、僕の平和の形が伝わり広がればいいと思う。

優秀賞 言葉の使い方について

山東小学校六年 力石 梨心

私は、言葉は人を傷つけることもするし、幸せにすることもできるものだと思います。言葉の使い方をよく考えて、みんなが幸せになれたらいいなと思います。

私は、いつもお手伝いをするとお母さんに、「ありがとう」と言われてとても幸せな気持ちになります。言葉は、人を幸せにしてくれます。逆に、こんな体験をしたことがあります。私は、クラスの中で背が低い方ですが、私より下の学年の子に、六年生なのに「二年生に見える。」や「私より背が低いんだね。」などと言われたことがあります。その時は、笑ってごまかしていますが、内心とても傷ついています。言った子たちは、私を傷つけるつもりはなかったと思いますが、それでも私はいやな気持ちになります。言葉は、言われた人の受け取り方によつて、言った人の思いとは違う伝わり方をすることがあります。

他にも世の中では、もつともつとひどいことが起きています。それは、言葉によるいじめです。何げなく軽く言った言葉でも相手に重くひびいてしまつて学校に来られなくなつたり、最悪の場合には、人の命をうばつてしまつたりすることもあります。同じ言葉でも、言われた人の受け取り方はさまざまで言葉の使い方の難しさを感じます。

そこで、優しい言葉つてどんな言葉なのか考えてみました。私は、お姉ちゃんや弟と家で遊んでいる時、「もう少し優しい言葉で言った方がいいと思うよ。」と言われる時があります。一緒に過ごしている中で自分の気持ちが強くなつてしまつと、自分でも気づかないうちに口調がどんどん強くなつてしまつと、ことがあり、けんかになつてしまつ時もあります。言っている時は、自分の思っていることをただわかつてほしいと思つているだけで夢中なので、実際は「どんな言い方をしているのかわかりません。でも冷静になつて、「今こういふ言い方をしてた

よ。」と言われると、「その言い方じゃ相手を傷つけるだけだな、何も伝わらないな。」と反省することもあります。もちろん、その逆もあります。「そんな言い方をしなくてもいいのに。」と思つこともありますが、兄弟なのですぐに誤解もとけます。でも、これが友だちや他の人だったら少し不安になります。私は優しく言つたつもりでも、友だちからしたら「何でそんなことを言うのかな。」と思われていることもあるかもしれせん。友だちが落ちこんでいる時、「大丈夫？」と声をかけることがあります。もしかしたらその言葉も相手にとっては正しい言葉ではない場合もあるのかもしれませんが。私も何かがんばつてしたことが失敗に終わつてしまつた時、「またがんばつて。」と言われると「がんばつているのに・・・」と逆に素直に受け取れないこともあります。

言葉は、使い方をまちがえたと人を傷つけてしまつし、自分も傷つてしまいます。でも、言葉は一言で人を幸せな気持ちにしてくれる力ももつています。まずは、いつでも相手の気持ちをよく考えて、優しい言葉遣いができるようにしていきたいと思つます。そして、みんなが幸せになれる言葉がたくさんあふれる世界になつてほしいです。

入選 いじめについて

河南小学校六年 五井 愛桜

私は今まで人権についてくわしく考えた事がありませんでした。そこでこれを機会に人権について考えたいと思いましたが、まず最初に人権とは何なのか調べてみました。「人権とは、すべての人は生まれながらにして自由であり平等であること。」と書いてありました。

私が一番に頭に浮かんだ事は、いじめの事です。どうしていじめが起きてしまうのか。見た目やうらやましがる気持ち、思い通りにならない気持ち、ストレスや不満の八つ当たりなど、色々な原因があると思います。でもこれはいじめをしてよい理由にはなりません。いじめは心と体を深く傷つけてしまいます。実は私も高学年になってから、いやがらせを受けていました。仕返しに怖いし、恥ずかしいし、心配させてしまうという気持ちで親にも先生にも、誰にも言えなくて、ずっと一人がまんしていました。負けたくない気持ちが強かったし、学校が大好きなので、休まずに行こうと決めていました。でも、やっぱり学校へ行くのが怖くなってきてしまい教室に入ることもできなくなるぐらい辛くなってきてしまいました。だけど、担任の先生は信頼できる先生だったので、思い切つていやがらせの事を相談できました。仲の良い友達や親、おばあちゃんや先生が私の事を支えてくれたので、今は怖いという気持ちはまだありませんが、前よりは少し楽になりました。学校もいじめに対する対策を色々と考えてくれました。こうやってみんなが助けたり、支えてくれたりしたから、とても感謝しています。私の周りには、私を守ってくれる、頼れる優しい人達がたくさんいて、本当に幸せなことだと思います。早く前のような学校生活を送れるようになることを願っています。

私はこのような経験をしたので、いじめられている人を見る

と自分も辛くなります。どれだけ苦しいかもよくわかるような人間になれたと思います。そして大切な人たちの存在を改めて知ることができました。本当にいじめをやめてほしいと思います。なんでこのようにいじめが起きてしまうのか、なぜこの世界にいじめが起きるのか、みんなが一人ひとり、思いやりの気持ちをもって行動すれば、この世界からいじめはなくなるし、起きなくなると思います。

私は、いろんな人の心を考えられる人間になれたと思います。もう私は、泣いている人や悲しんでいる人やさみしい思いをする人が現れないでほしいです。だから私は、人にいじめをしないし、いやがらせもしません。みんなも言葉や行動に気をつけてほしいと思います。私はいじめがこの世界からなくなつてほしいと強く思います。人権は人間にとつてとても大切な権利です。日々の思いやりの心によつて守られなければならないと思います。